

## 令和2年度 第2回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和2年11月11日（水）午後7時から8時40分まで
- 2 開催場所 伊東市役所7階特別会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員5人（欠席1人）  
市長、企画部長、事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）

### 4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

### 5 会議概要

- (1) 開会  
企画課長から開会

- (2) 市長挨拶

大変お疲れのところ、お集まりいただきましてありがとうございます。本日は初めての試みとして、委員の皆様を2つのグループに分けさせていただきました。少人数に分けることで、コロナ対策もありますが、直接皆様一人一人としっかりと意見交換を行い、より実りある会議としてまいりたいと考えています。

本日のテーマは、「安心して子どもを産める・育てるまちにするために伊東市が取り組むべきこと等」です。

私が市長就任して以来、子育て支援策として、5歳児の幼稚園・保育園の保育料無償化や高校卒業まで医療費の完全無償化の拡充などを実行してまいりました。

昨今の大きな時代の転換期の中、留まることなく、新たな価値観による新しい伊東スタイルを本市の未来のために若い世代の皆様と共につくり上げてまいりたいと思います。ごつくばらんな時間にしたいと思いますので、忌憚のないご意見をお願いします。

- (3) 意見交換

#### 【事務局】

意見交換を行います前に、事前意見（提案）・質問についてご説明します。

事前意見（提案）・質問一覧をご確認ください。

事前に皆様からいただいたご意見やご質問の取りまとめと、ご意見やご質問に対しまして、現状の市の主な取組等を記載しております。

現状の取組として記載してある内容についてですが、このご意見やご質問も踏まえまして、意見交換を行っていただくことがメインとなりますので、議論の発展性を考え、詳細な取組内容まで記載していないこと、ご了承いただきますようお願いします。

また、ご意見・ご質問を、3つのカテゴリーに分けさせていただきました。事務局からの説明は、一度に行いますが、この後の意見交換は、カテゴリーごとに行いたいと思います。

例えば、安心して子どもを産める・育てるまちにするために伊東市が取り組むべきこと等として、まずは幼稚園・保育園・学校の環境の観点から意見交換を行っていただき、次に子育てに関する環境の観点、次に移住・定住、働く場所の観点から意見交換をお願いします。

それでは、事前意見（提案）・質問一覧の記載内容について、ご説明します。

幼稚園・保育園・学校の環境についてです。

1つ目は、小学校・中学校の給食費が安くなればというご意見です。

現状として、令和2年度の給食費は、月額小学校4,800円、中学校5,800円です。家計の負担軽減等を目的に、伊東市の地産地消推進事業費として、令和元年度は1,100万円を予算化し、給食費に充当しています。

続きまして、自宅から保育園や幼稚園まで通うにあたり、伊東市内での平均的な通学時間はどの程度ですか。また長泉町や三島市など他の市区町村と比較すると、どの程度の所要時間なのでしょうかという質問です。

平均的な通園時間の把握はしておりませんが、例えば、ご自宅付近に通われているご家庭や職場付近に通われているご家庭など、各ご家庭の事情に応じて、入園を希望する幼稚園・保育園にて申請を受け付けています。

続きまして、夫婦共働きで保育園に預ける場合、仕事の都合上で送り迎えが困難な職場もあるかと思いますが、伊東市として企業側に時差出勤などの推進の呼び掛けや補助などを行っているのでしょうかというご質問です。

民間企業への呼び掛け等を行っておりませんが、通常保育の時間に仕事等のご事情により送り迎えが困難な方には、延長保育を実施しています。延長保育の実施の有無や時間は、各保育園によって異なります。

続きまして、子育てに関する環境についてです。

ご意見の紹介のみになりますが、安心して子どもを産める・育てるまちを宣言しませんか。それは親にとってなのか、子供（未就学児）にとってなのか、学生（18歳以下未成年）なのかによってだいぶ目線が変わると思います。「誰にとって」を語るのはナンセンスなので全部の目線で考える時に宣言してしまった方が一旦みんなが安心できるのではないかと思います。とのご意見をいただきました。

次です。伊東市が「育てるまち」になるためには、学校教育の他にもスポーツが大切であると思います。実現性は低いこと、既に何度も検討されていることと思いますが、市民が使用できる総合運動場などの建設を再度検討してみてはいかがでしょうかのご意見です。

今年度、コロナの影響により市民生活を守ることを優先するため、事業を見送りましたが、現在、市民運動場の人工芝化に向け準備を進めております。

次です。芸術（絵や音楽）に触れる環境をもっと作れないものか。（EX・未使用の幼稚園や、公共施設を用いて）とのご意見です。

現在、伊東市の取組として、市民が行う文化活動に対して、助成や後援による支援を行っております。また、令和2年度市民満足度調査（市内2,000人を無作為抽出）の「芸術・文化に触れる機会の充実」に満足している市民の割合は62.7%という結果でした。

次です。子どもが様々な体験（遊び・仕事）ができる環境を用意してはどうか。特に屋外でのプレイスポットが少なく感じるとのご意見です。

主な取組として、小学生を対象に、乗船体験やSUP体験等の文化・自然体験を実施するふるさと教室や毎年、都市公園の遊具の設置・整備の実施、また令和元年度のいとう創造大賞にて最優秀賞を受賞した伊東市こどもプレイパーク事業実施団体に支援（補助）を行い、市内公園等にて小学生がクライミングや竹箸作りなどに挑戦しております。

次です。ひとり親家庭の手当は県内でもトップクラスに良いと聞いた事があります。しかしひとり親家庭の貧困層が決して少なくないとも聞いた事があります。これは各家庭の問題であって市ができる事に限界があるかとは思いますが、しかしこの点においての子供たちの教育格差などを開けさせない為の市としての考えは何かありますか。とのご質問です。

ひとり親家庭の支援といたしましては、母子家庭等医療費助成などの各種助成や就学支援事業などの経済的な支援を行うとともに、自立促進を図るため、就業相談や資格取得費用の支援などを実施しています。また、生活困窮者の自立支援として、生活の安定に向けた相談・支援や困窮世帯の子供たちへの学習支援を実施し、生活困窮者の自立支援と貧困の連鎖を防止し、教育格差が生じないように努めております。

次です。新図書館構想会議の中で現時点での子育てに関する意見や要望などが有ったら教えて欲しいです。保健センターもそうですが図書館や児童館も育児の中で重要な拠点になる事は間違いないと思しますのでとのご質問です。

市民参加等による各種ワーキングでは、小さい子どもが伸び伸びと本に触れあえるスペース及び遊べるスペースや集中できる学習室の設置などの意見がございました。

次です。子育て支援制度を受ける場合、原則として市役所を訪れる必要があるかと思いますが、若者の車離れにより運転が得意ではない人が弊社でも見受けられます。アクセス向上のために駅や市街地から市役所までを結ぶ循環バスのようなものはあるのでしょうか。（このほか、市HPにも市役所へのアクセスが記載されていないように思います）とのご質問になります。

現在、循環バスはありませんが、市内各所に出張所がございます。出張所においても様々な申請手続きが行えるようにしております。

移住・定住、働く場所についてです。

初めに、結婚前・出産前からの意識付けとして、伊東市での子育ての取組を周知させる必要がある。今回の冊子の全戸配布などを行う。子育て世代の上の世代にも知ってもらえれば、Uターンへの関心が高まるのではとのご意見です。

「みらい」の令和2年度の主な配布先ですが、妊娠届提出者、幼・保育園、小学校1～2年生の児童がいるご家庭、学童、また移住定住を検討する方への情報として、静岡県東京事務所を通じ、有楽町の移住相談センターに配架をしております。

次です。親が働く環境がなければ子育てが安心してできないので、企業誘致などを行うと県外・市外へ転出した若者がUターンで戻れるような取組（託児所の設置など）とのご意見です。

伊東市の自然環境や昨今の社会情勢を考慮し、本社から離れた場所に設置するサテライトオフィスの設置等の支援を行い誘致を行っています。また、Uターン等で戻ってもらうためにも、就職先の確保が重要ですので、このような企業誘致に取り組んでお

ります。サテライトオフィス設置実績は、平成30年度は1件、令和元年度は1件、令和2年度はまだ未確定ですが、現在2件となっております。

最後に伊東市内に子どもを産んで養っていきける仕事や就職先が安定して有る事が前提と考えますが、市として市内の失業率や求人倍率、高校卒業後の進路、もしくは大学卒業後のUターン・Iターン者の人数や率はどの程度把握できているのでしょうか。というご質問です。

令和2年9月のハローワーク伊東の有効求人倍率は、0.78倍でした。比較として、昨年9月は、1.56倍でした。コロナの影響により今年の4月以降は、1.0倍台を下回っている状況です。

また、高校卒業後の進路又は大学卒業後のUターン・Iターン者については、正確な人数や比率は把握しておりませんが、大きな流れとして、人口移動状況の統計を参考にいたしますと、男女とも15～19歳から20～24歳になるときに多くの方が転出している現状がありました。これにより高校卒業後の進学や就職等で市外に転出している状況が分かります。

その後といたしましては、男性は次の年齢層である25歳～29歳で、転出より転入者が多くなる傾向がありましたので、就職や結婚等による一定程度のUターン又はIターンがあるものと思われま

す。一方、女性は、男性に比べて15～19歳から20～24歳になるときの転出は少ないものの、その次の25～29歳の段階でも転入より転出が多いため、UターンやIターンによる就職世代の転入が比較的少ないと思われま

す。簡単ではございますが、事務局からの説明は以上となります。

#### 【市長】

それでは、意見交換に入ります。事前にいただいた意見等について事務局から説明しました。3つのカテゴリーごと進めたいと思います。トップバッターとして事前に意見をいただいたA委員をお願いします。

#### 【A委員】

職場の先輩や上司にこの未来ビジョン会議の話をしたところ、中学生のお子さんがいる家庭から給食費が安くないかという話題になりましたので提案しました。また中学生にとっては、給食の量が少ないということも言っていました。

#### 【市長】

先ほど説明しました地産地消推進事業費として、1,100万円を給食費に支出しております。これが支援に当たりますが、客観的に月額小学生4,800円、中学生5,800円と聞いて高いと感じますか。

#### 【A委員】

私が子どものときも、月額5,000円ほどであったと記憶しており、妥当だと思いますが、高いという意見があります。

### 【市長】

給食の量が少ないという意見ですが、参考にさせていただきたいと思います。

所得など各家庭によってご事情がありますので、難しい問題だと思います。給食は食育という面もありますので、地産地消という面で地場産品である農産物、魚介類など、形を変えて支援ができるかもしれません。今後、子育てしやすいまちにするためにも改善していきたいので、職場の先輩にもこのように伝えてください。

次に事前に意見をいただいているB委員お願いします。

### 【B委員】

私は結婚もしていませんし、子どももいませんし、伊東市ではなく東伊豆町にある社員寮に住んでいます。伊東は子どもが遊べる公園も多く、魅力的に感じています。

私事ですが、30歳になると社員寮を出ないといけません。次にどこに住もうかと考えたときに伊東はとても魅力的ですが、会社は伊豆高原にありまして、三島や長泉町なら通勤できると考え質問したのと、保育園が近く、希望通り入園できるのであればそのことを考慮して住むということも考えられるという趣旨です。

次の質問は、弊社は時差出勤しておりまして、お子さんがいる方は、17時25分退社をしています。しかし駅現場は19時退社か20時20分退社になり、駅現場の保護者は、お子さんの送り迎えに苦勞しています。弊社は社員もそれなりにおりまして、市はどのように考えているのか伺いたかったのと、市がこう言うのであれば、そうしよう等、市の声は弊社にとっても影響があります。

本会議に出席する際にも「無礼のないように」と会社から言われて出席をしています。市が声掛けをすれば、時差出勤をしていない会社も、配慮するのではないかと思います。

次の質問ですが、学生時代に陸上競技をやっておりまして、伊豆に移住してからも続けたいと思っていたのですが、競技会も沼津まで行かないと実施していませんので、やめてしまいました。子どもを育てやすいまちになるためにスポーツ合宿を誘致すれば、自然と伊東の子ども達もスポーツ選手と交流する機会が増えると思います。そのためには総合運動公園があり、合宿地として選ばれる環境が必要だと思いました。

### 【市長】

例えば、伊東市民が沼津に出勤するに当たり、沼津市の保育園にお子さんを通園させた場合、伊東市が負担すべきものを沼津市にお支払いしている事例があります。できましたらB委員には伊東市に住んでいただきたいです。

市役所の職員もそうですが、子育てと仕事の両立が大変です。祖父母に手伝ってもらいやっと子育てができる社会になったと思います。その中で、市民病院も企業内保育所を持っておりまして、伊豆急ホールディングスでも持っていただいて、一つの事業として注目されれば、企業イメージがアップすると思いますので、B委員から会社へ提案することもよろしいかと思います。その事業に、市が補助をするという方法もあります。現状、保育時間も各園によってさまざまです。遅い園では午後8時までになります。延長保育の時間など今後の課題です。

スポーツ施設は、今年度、市民運動場を人工芝化する予定でございましたが、新型コロナウイルス感染症への対応を行うため、1年延期しました。私は、来年度必ず実行する

んだという強い気持ちでいます。今までと比べ、見違えるようなグラウンドができると思います。少年中心になると思いますが、サッカー大会の誘致をしていきます。また、グラウンドゴルフとして健康増進のために使っていただきたいと思います。伊東にも小室山総合運動公園がありますが、これからもスポーツ施設を整備していきたいと思います。

続きまして、C委員お願いします。

### 【C委員】

今回事務局から事前の質問事項等をもらった際に、皆さんと考え方が違って、お金や交通の充実が育てやすいまちに直結してなくて、極論を言えば、給食費は無料に、交通の便はある地域を良くしたら、また違う地域から意見が出てきて、永遠に市民感情と行政は追いつきません。例えば、移住に絡めると世帯の所得もありますが、移住するときに、買いたい家があつて、その後このまちがどんなまちなのかを考えていく順番ではないかと思います。住みたいまちの選び方として、育てやすいまちイコール甘やかされるまちではないと感じています。支援によって、さまざまな部分が楽になるという甘やかしは、将来的に躓く子どもが育ってしまいます。例えば、東京に住んでいると感じるのですが、住んでいる区がどんな政策をしているかまったく知らないし、耳にもしません。しかし、地方に来ると、市の取組について、批判をよく耳にします。しかし、批判をする割には市がどのような取組をしているか、まったく情報を収集していません。住民が情報を拾い、理解を得ることが、育てやすいまちに繋がるのではないかと思います。最近の事を例にすると、伊東市で最初にコロナに感染した方の写真が伊東の出身でもない私にまでメールで送られてきました。そういうことをしないまちが、良いまちではないかと思います。伊東で商売して思うのですが、お店側がちょっとしたトラブル等を自身のフェイスブック等にアップしています。小さいまちですので、そんなことを書き込む店主がいる店にはお客さんは行きたくないと思いますし、市として何かしら指導してもらえればと思います。

芸術に触れる機会ですが、まちの規模は考えていません。まち中にいろいろモニュメントがあり、伊東は割と芸術に触れる機会が多いまちだと思います。特に伊豆高原は、陶芸やガラス工芸等があります。芸術に触れる機会の満足度の62.7%というのは、学校の授業や身の回りであつて、ナチュラルに目に飛び込んできているからだと思いますが、芸術家の創生には繋がっていません。極端な例ですが、イタリアやフランスは国家予算の1%を文化施策に使っていて、日本は国家予算の0.1%しか使っていないです。しかし、イタリアやフランスの人はそれでも満足していません。伊東は62.7%も満足している市民がいるのに、もっと高めていかないのはもったいないです。日本において芸術作品に触れられる公園は少ないと思います。伊東はなぎさ公園などがあり、そういうところからアートに近づいていけるのではないかと思います。収入はがんばれば上がりますが、場所の提供は市じゃないとできないところもあります。例えば、休園している幼稚園そのものに「絵を塗っていいよ」ということを行ったら、市民もどどん色を塗っていくだろうし、観光客も参加すると思います。そこから交流であつたり、身近にアートを感じられると思います。市からもっと場所を提供してもらい、芸術と文化に触れる機会を高めただければ、今後、伊東出身というアーティストが出てくるのではないかと思います。

今市が色々実行していることは存じているものの、私達もマルシェや原宿イベントを開催すると、商店街に子ども達が来てくれます。その中で、伊東の子ども達なのに普段この場所に来ないということがあります。空いている空間があるのであれば、変わった公園を作ったり、商店街にも座れる場所を作ったりしても良いと思います。

伊東は国際観光温泉文化都市ですので、観光客と触れ合える場所として、高校や小学校が統合されると、大きな箱が空くと思います。例えば、そこで鬼ごっこをやってみる。鬼ごっこ専用の場所にしてしまうという、ぶっとんだ発想があれば、地元の子ども達や観光客が触れ合い、相乗効果として、いろんな遊びから何か生まれるきっかけになるのではないかと思います。これから生まれてしまう市としての財産が負債にならないように、子ども達の遊び場へ転換していければと思います。私達は、藤の広場でイベントを行っていますが、スケートボードをやっている子が多くいます。スケートボードってなんか悪いスポーツというイメージがあって、やってる子は、周りに怒られたりするようです。でもオリンピック種目になったスポーツなので、伸び伸びできる場所を提供してあげれば、スケートボード人口は増え、市外からきたスケートボードをやる子たちと地元の子が交流できる新しいプレイスポットができたらいいなと思います。

交流をして、色々な人と出会い、考えや経験を育てることが、育てやすいまちという未来に繋がると思い、提案しました。

#### 【市長】

様々な観点から意見を述べていただき、いつも幅広い視点を持っていると感心します。甘やかすまちイコール育てやすいまちではないということはよく分かります。しかし、お金で支援することが行政は多いです。補助であったり、コロナ禍の中で少しでも手助けをしようと思います。また、今年度、高校生までの医療費無償化を行いました。費用として年間の約3,000万円になります。この金額を皆さんはどのように感じるでしょうか。多く方は無料になってよかったですだけで、この金額の大きさを分かっていないかもしれません。情報の伝え方はとても難しいです。前回の会議で、実績として「みらい」という冊子のことを伝えました。この未来ビジョン会議の委員の若い人の意見を取り入れて出来ました。もしかしたらこの冊子を知っている保護者はそれほどいないかもしれません。要は、情報を提供する難しさを課題として持っています。

甘やかされて、子育てしやすいまちになるのかということもありますが、今できることを実行していくことが大事で、私が市長になって最初に実行したことは、就学前の1年間の保育料を無償化しました。保育料を市が負担しましたが、私が市長として公約に掲げ、実行したのですが、一部の方は市長が変わったから無償化になったと思ってくれるかもしれませんが、ほとんどの方は「無料になった。よかった、よかった。」に留まってしまいます。政策というのは、明確な目的をもって立案して実行していくので、この目的を皆さんに分かっていただきたいと思います。一方、高齢者の方は、医療費など市が多くを負担しているのをよく知っていますので、政治や行政に対する注目度が違います。新聞もものすごく細かい記事まで読みます。年を重ねるごとに、自分で情報を取りにいけます。

文化については、伊東高校城ヶ崎分校はかなりの成果を出しています。毎年、優秀な子が出てきていまして、将来、必ず世間に注目されるアーティストが出てくると思います。

また、なぎさ公園にもある重岡先生の作品は触ったりすることが自由にできます。先日アトリエに訪れた際に「僕の作品の特徴は指先がないこと。みんなが触ると折れてしまうので、触ってもらいたいという気持ちを込めている」と仰っていました。

変わった公園や観光客との交流として、鬼ごっこの施設ですか。

#### 【C委員】

走ってはいけないと教育されている学校で、公然と鬼ごっこができるってすごい楽しいと思います。

#### 【市長】

サバイバルゲームがヒットしたこともあり、伊東市でやったらどうかという話をいただいたこともあります。

遊具とか毎年整備していますが、ほぼ既成品です。伊東独自の物があれば、伊東の売りになると思います。ありがとうございました。

続きまして、D委員お願いします。

#### 【D委員】

私の仕事柄でもありますが、ここ数年別荘地に移住してきている方が多いです。子育て世代、主に20代から30代を対象に子育て宣言しているまちであれば、こういう取組をしていて、どういう手助けをしてもらえるまちなのかという興味を持ってもらえます。宣言することで、まちとしても後ろに引けなくなりますし、市民の意識も積極的になり、例えば年寄りに積極的に子育ての手伝いをしてもらうという前向きな姿勢が出てくると思いました。

子育てといいましても、例えば高校から大学に行く世代もいれば、生まれたばかりの子どももいます。それぞれの世代に合った手助けの仕方をするのが良いと思います。市が全部負担するのではなくて、市民同士も手助けできるようなまちに、宣言することになると思い、提案しました。

#### 【市長】

行政として宣言することは、とても勇気が必要です。しかし、まず宣言すれば、興味を持ってもらえるというのは、その通りです。支援策をやっても意外とみんな知らないです。伝えるということは難しいので、とりあえず宣言してしまう。それにより市民同士も、協力し合い、触れ合いができれば良いと思います。市が行っている事業にファミリー・サポート・センターという制度がありまして、子育ての支援をしてほしい人と支援をしたい人とをマッチングする制度です。双方の会員数は約350人です。このような制度があるということも伝わっていないのではないかと思います。伝える方法を考えないといけません。宣言は難しいですが、政治家として「子育てのまち伊東を目指します」というようなキャッチフレーズを掲げることができると思います。



**【D委員】**

それがいいと思います。誰かの大きな声は響くところには響きますので、宣言が難しいのであれば、影響力のある人が大きな声はあげてもらおうということが発信力に繋がります。

**【市長】**

とても参考になります。

**【D委員】**

私の周りでもひとり親の家庭が少なくありません。子どもの面倒を見ながら働いていきますと、仕事と子育ての両立が難しいと見受けられます。働きにくい、雇用しにくいということもあります。雇用者として人材不足で悩ましいですが。このような中で、教育の格差が生まれてしまうのではないかと危惧しています。習い事をやりたいのに出来ないというのはかわいそうですので、市の考えや支援方法についてどう考えているのかと思いました。

また、図書館を新しく建替えるということで、ワークショップ等開催されていると思いますが、文化的スペースである図書館は子育ての中核になると考えています。図書館を建てることで、子育て支援として、どのような計画がされていたり、また委員の中からどのような子育てのキーワードが出ているか聞いてみたかったです。

**【市長】**

ひとり親家庭支援事業をやっています。例えば、相談を随時受け付けていますし、ひとり親家庭の就学費助成事業もやっています。実際には多くの相談件数があります。雇用の面や、保育園では待機児童0になるよう、ひとり親家庭でも働きやすい環境を目指しています。一人親家庭の教育格差が生じないようにというご提案をいただいたので、お金の支援になってはしまいますが、考えていきたいと思います。

現在、新図書館の基本構想を策定するワークショップを行ってしまして、たくさんの良い意見が出ています。私が出席したワークショップは高校生までの若い人が参加しており、横で意見を聞くことができました。私の新図書館のイメージは、みんながくつろげる、憩いの場所になってほしいと考えておりまして、今の流れはカフェが併設され、本屋もついていて、民営でやっています。そこに子育ての支援センターがあったり、生涯学習のスペースも併用したいです。外には芝生公園を作って、公園の機能をも兼ね備えたものや津波の対策として高い建物にした方がよいという意見もあります。今の図書館が駐車場がないので、駐車スペースを十分に確保し、お弁当を持って立ち寄ったり、夕方子どもとふらっと遊びにくるような誰でも気軽に来れるような施設にしたいと思います。もちろん、本を読んだり学習したりする機能は必要ですが、できれば、いろんな人が休める場所、楽しめる場所になるようにしたいと思います。できるだけ早く、開館できるようにしていきたいと思います。何か補足ありますか。

**【企画部長】**

ワークショップにおいて、活発な意見交換が行われていると伺っています。市民の皆様が望む図書館はさまざまですが、その中で子育て世代の意見を取り入れて、健康福祉

センターと連携しながら、伊東ならではの図書館を作りたいと考えます。また感染症対策に配慮して、安心・安全な図書館としていきたいと思ひます。ご意見がございましたらお願いしす。

**【D委員】**

伊東ならではの特徴的なおもしろい意見はありましたか。

**【市長】**

よく言われるのは、源泉を利用した足湯やお手湯などの設置の意見が出ていますが、源泉が枯渇している可能性もあり、その調査だけで、何千万円もかかる可能性があります。温泉が使えるのであれば、将来的に整備したいと思ひます。

**【C委員】**

横浜にあるユニクロパークみたいにはできませんか。

横浜のベイサイドマリーナにユニクロパークがあります。外から建物を見ると、全部滑り台で外が繋がっています。滑り台の横に、カフェテラスがあつて、滑り台で1階まで降りることができます。カラフルな色使いで、防災的にも問題なく、建物の構造を斜めにしているだけなので、費用も思つた以上に掛かつていないようす。そこには、買い物目的ではなく、海の近くという立地もあると思ひますが、遊び目的で多くの方が訪れているようす。建物自体で遊べたらいいなと思ひますし、そういうのが図書館としてあればいいなと思ひました。大人も童心に戻つて滑り台で遊んでいるようす。

**【市長】**

今、時が経つても、建物が古いと思われぬ工夫をしてほしいという希望は伝えています。例えばこの市役所もミュージックPVの舞台として撮つてもらひ、完成品を見たらとても近代的な建物に映つていました。伊東らしくというのは、色々な視点があるのでなかなか難しいですが、多くのご意見を反映したいです。

**【B委員】**

最近、車の運転ができない若い方が多くいます。私も会社で後輩ができる立場になりまして、今度その後輩が市の会議に出席するのですが、車の運転ができません。I・Uターンを積極的に誘致するとしたら、対象の多くは首都圏です。しかし、伊豆全体に言えることですが、運転ができないとどこにも行けません。どこにも行けぬとなると孤独を感じます。企業誘致して、例えば単身赴任で移住しても、会社以外にコミュニティがなければ、伊東に来た意味がありません。提案した循環バスも1つの手ではないかと思つておりまして、市内を結ぶため、2次交通としても意味があると思ひます。

また、市HPに市役所のアクセスマップがありません。出張所も住所は掲載しているのですが、アクセスマップはありません。自分で調べればいいのですが、外の人を呼びたいという目標があるのであれば、地理が分からない人へ案内がないのは、冷たく感じます。市役所も駐車場の記載もないので、掲載していただけるとありがたいです。

**【市長】**

僕らの世代は車命でした。スマートフォンに月何万円も支払う時代ではありませんでした。こんなに車を持たなくなる時代が来るとは思いませんでした。他の方からも循環バス等の要望はありますが、ニーズの把握を行う必要がありますので、今後検討をしていきたいと思います。

住所については、移住希望の方に現地ナビゲート事業を行っており2年目を迎えています。

**【企画部長】**

市役所のアクセスマップは、市HPに掲載はありますが、わかりやすいとは言えません。

**【市長】**

HPを作成している側は、とても良いものができると思っていますが、見る人を見ると、欲しい情報がどこにあるか分からず、不快になってしまいます。

**【B委員】**

弊社も2年前くらいにHPを刷新して、見やすくなったつもりですが、相変わらず電車の時刻表の問合せがきます。伝え方って難しいと感じています。

**【市長】**

すべての方が自分と同じであると思ってはいけません。作る側は、その分野に精通している人だから、みんなこのぐらいのレベルはあるだろうと思ってしまいます。私から、常々言っているのは、欲しい情報にワンクリックで辿り着くようにしてほしいと言っています。最近では、コロナの情報もワンクリックで情報に辿り着くようにと担当部署に伝えていますが、なかなかうまくいきません。一般の方に分かり難い部分もあるかと思っていますので、今後の課題です。

**【A委員】**

この「みらい」について、職場の子育て世代に聞いてみたところ、存在を認識してなくて「こういう冊子があれば助かるね」と言っていました。作って満足だとしてもないので、知ってもらうことが必要です。「子育てするには良い環境ですよ」と伝えるには、誰に情報を届ければ良いのか難しいです。これから子育てをする世代なのか、今、子育てをしている世代なのか、孫が生まれた世代なのか。

伊東で子育てするには、職場環境がないという話にもなりました。私は福祉職でして、福祉職・介護職は門戸を開けて人材を待っているのですが、担い手はなかなか現れません。私は、相談員ですので介護現場の職員ではありませんが、現場の職員に子育て世代はいませんし、若い方もいません。こういう課題を解決するのが介護職の責務でもあると思います。このような話をしている中で、新聞で「はじめよう伊東応援事業」の記事を見て「すごい良い制度だね」と話題になりました。私は社会福祉士の資格を持っていますので、この制度チラシの表に書いてある対象資格として社会福祉士も記載して

ほしいです。資格を取得した学生たちの受け皿として、この制度があればU・Iターンのチャンスがいっぱい出てきます。「お金をもらって伊東に戻れるなら嬉しいね」という意見もありました。

また、伊東で働くことになった場合、保育園の待機児童0を目指していると思いますが、介護職は24時間フルタイムで働いています。子どもを預けられる環境として、夜遅くまで子どもを見れる託児所や市民病院のように院内保育所があれば、親が伊東にいない世代でも、子どもを預けられる場所があれば、安心して伊東に来れるのではないのでしょうか。

#### 【市長】

この「みらい」だけでは、うまく情報が伝わりません。私は、情報を活用しきれていないと感じています。移住をするとすると、伊東に働く場所があるのかということだと思います。この制度は1つの仕掛けです。社会福祉士につきましては、表に記載はありませんが「等」と記載しておりまして、この「等」と表現するのが行政の特徴です。この制度を立案する際に、さまざまな関係者に聞き取りをした結果、これらの職種が伊東で不足しているのが分かりましたので、周知して人材を集めるということから、スタートしています。もっともっと全国に発信したいと思います。

サテライトオフィスは、先日、富戸に土地を購入した経営者とお会いする機会がありました。このコロナ禍でテレワーク中心となり、週に1回オフィスに出勤すれば、仕事が出来てしまうとのことでした。富戸にサテライトオフィスを建てて、その場所でも仕事をして良いということを計画しているようです。例えば、空いている別荘などにサテライトオフィスを誘致できれば、働く場所が出来てくるのではないかと期待しています。急速に変化していくため、今後どうなっていくのかなかなか予測が付きませんが、研究しながら進めてまいります。

#### 【D委員】

伊東に移住するとすると先ほどから話に出ている仕事がどれくらいあるかだと思います。実際にどのくらいの人達が伊東から出て行って、その後戻ってくるのか。伊東へ移住してこられる方の数字が分かれば良いと思いました。しかし、分かったとしてもどのような対策をしていけばよいか考えがあるわけではないですが。

#### 【市長】

出生数として、私の同級生は1,000人いましたが、今は300人を切っています。小学校を統合しても、2クラスをやっと確保できるという状態です。このような中で、毎年亡くなる方は約1,000人いますので、自然減として年間約700人が減少してしまっていて、10年間では約7,000人減少しています。社会増減は、現在転入超過している状況です。

今年度の高校生アンケートの結果として、伊東に戻ってきたくない人は32.4%でした。約7割弱は戻ってきたいと思ってくれているようですが、最終的には働く場がないということだと思います。また、伊東に誇りを持っている、どちらかというと思って回答した学生は、71.6%でした。伊東を好きな子は多いです。

### 【D委員】

同世代の子どもを持つ親同士で集まると、私は言いませんが、子どもに「伊東に帰って来なくていいよ」と言ってしまうようです。親の意識も変えていかないといけないのかなと思います。

### 【市長】

いろんな要因があると思います。例えば、自営業を営んでいる方は、跡を継がなくて良いとか、職人をやられている方も子どもを跡継ぎとしてはみていないという声をよく耳にします。伊東にこだわらないという教育が変わったのかなと思います。保護者も市外の方が稼げて苦勞をしないと考えているようです。

### 【D委員】

私の子どもは、大学3年生で自宅から通学しています。妻も伊東で店を営んでいて、いつかは跡を継いでほしいと考えており、子どもにもそのような話をするのですが、「伊東市役所に就職したい」と言っています。本人は、一応伊東に戻ってくる気持ちはあるようです。

### 【市長】

来年、採用試験を受けてくれることを期待しています。

「はじめよう伊東応援生活」を始めまして、資格を持っていても雇用側とのミスマッチングで人材が集まらないという課題を解消したいです。このような制度を活用しながら、新たな一手を研究していきたいと考えています。

### 【E委員】

企業内託児所等の様々なキーワードが出てきましたが、以前私は宇佐美に住んでおまして、友人の話になります。宇佐美から八幡野まで保育園に通っており、共働き世帯でお母さんが毎日送り迎えをしていて、宇佐美から八幡野まで送って市内の勤務先まで行くのに約1時間10分掛かるようです。朝の1時間を作り出すのはとても大変だと思います。その時間を解消したいということをよく耳にします。保育園で希望したところに入れないことや勤務もフルタイムでないと保育園に入れないであるとか、さまざまな事情があると思います。このような話を聞いて思ったのが、自分達の話になりますが、弊社でも保育所を運営しておまして、この施設に初めてきたお母さんに聞くと、こんな保育所があるなんて知らなかったとよく言われます。保育園のママ友繋がり、この保育園の存在を知って、入れてよかったと言ってくれます。情報の幅や厚みを持たせるという意味で、市が運営していない保育園や託児所の情報を「みらい」のような冊子に掲載してもらおうと良いのではないかと思います。

保護者から保育所について知らなかったということをよく耳にします。知ってもらい、利用してもらうことで、保護者だけでなく雇用側にも喜ばれるのではないのでしょうか。そしてこのことが、住みやすい伊東に繋がっていくのではないかと感じます。

### 【市長】

市が運営する保育園は「みらい」に掲載してあります。E委員の保育所は、私も実際に見せていただいたことがありまして、施設がとても充実していました。地域の方も受け入れてくれるということもありまして、すばらしいと感動しました。

そんな素晴らしい施設でも、意外と知られていません。基本的には従業員への福利厚生ですが、いい条件の会社で働けることはとても重要なことです。行政が発信することは、実績がなく難しいと感じていますが、行政とリンクできるように一步一步前進していかなければ、永遠に課題は解決しませんので、今出来るところまで前進していき、保護者が預けたい場所に預けられた上で、待機児童を0にしたいです。

保護者が選択できる施設を用意することが大事だと考えておりますので、今後「みらい」に掲載できるか、また市HPに掲載できるか等、試行錯誤しながら進めていきたいと思っております。E委員は、JCでも活躍されておりまして、さまざまな情報をお持ちでしょうから、もっと意見交換を行いたいのですが、終了時間が過ぎておりますので、この辺りで意見交換を終了します。

最後に、皆さんがとても真剣に伊東を考えていることがよく伝わってきましたし、これだけのメンバーが揃うと、いろいろな情報が集まるなということを実感しました。私自身、未来ビジョン会議で教えてもらうことがとても多いです。自由に意見をいただけるように、このような場を今後も重ねていきたいと考えています。私は、トップダウンよりもボトムアップが大事だと考えておりまして、行政の長をやっておりますが、例えば、戦はトップダウンが良いと思っておりますが、行政として多くの方に満足してもらう政策を実現するためには、さまざまな世代の声、さまざまな環境の声、市役所職員だけを頭脳として考えるだけでなく、一般の方々からいただいたアイデアをどのように実現していくのかということが、多くの方の満足度を上げることに繋がると考えております。この未来ビジョン会議で意見交換したことが、実になるように、また行政の参考になるように努めてまいります。

以上で未来ビジョン会議を終了します。長時間お疲れさまでした。

最後に事務局から、次回の日程についてお知らせします。

### 【事務局】

事務局から次回の日程について案内。

次回日程：令和3年1月14日（木）

以 上